

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 5 月 8 日 (2014.5.8)

【公開番号】特開 2013-222683 (P2013-222683A)

【公開日】平成 25 年 10 月 28 日 (2013.10.28)

【年通号数】公開・登録公報 2013-059

【出願番号】特願 2012-95603 (P2012-95603)

【国際特許分類】

H 0 1 R 24/38 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 24/38

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 3 月 25 日 (2014.3.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

さらに、外部導体 1 0 0 の外蓋部 1 1 2 (特に、平蓋部 1 3 6) が筒状部 1 0 4 を覆うように倒される際に、その屈曲部を屈曲させる。その際に、外部導体 1 0 0 における平蓋部 1 3 6 によって、絶縁座 2 0 0 の中蓋部 2 1 2 の外面に押圧力が印加される。そして、中蓋部 2 1 2 は、該押圧力を受けて、中蓋部 2 1 2 の内面 (すなわち、押圧面) と、端子 3 0 0 の接触部 3 0 4 の上面 (すなわち、中心導体 C 1 を支持するための支持面) との間で同軸ケーブルの中心導体 C 1 を挟圧する。その後、固定部 1 4 8 によって、保持腕 1 0 8 を包囲して、外蓋部 1 1 2 が開かないように外蓋部 1 1 2 の位置を固定する。さらに、シールド線カシメ部 1 5 6 によってシールド線 C 3 をカシメ包囲して、シールド線 C 3 と外部導体 1 0 0 の電氣的接続を確保する。また、外皮カシメ部 1 6 8 によって外皮 C 4 をカシメ包囲して、同軸ケーブルがコネクタから外れないように固定する。上記のように、中心導体 C 1 は、挟圧され、シールド線 C 3 及び外皮 C 4 は、カシメ包囲されて変形するが、誘電体 C 2 は、挟圧されることもカシメ包囲されることもなく、同軸ケーブルがコネクタに固定された状態であっても変形することがない。従って、コネクタ接続時のケーブルのインピーダンス等の電氣的特性の変化が少ない。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

外蓋部 1 1 2 からの押圧力を受けて、接触部 3 0 4 側に倒れる際に、折り曲げられ易い形状の切込部 2 7 0 の位置で折り曲がるため、中心導体 C 1 を十分に挟圧して固定できる正規位置に、中蓋部 2 1 2 を屈曲して倒すことができる。切込部 2 7 0 は、中蓋部 2 1 2 を屈曲して、中蓋部 2 1 2 の押圧面と接触部 3 0 4 の支持面との間で、中心導体 C 1 を挟圧したときに、少なくとも一部が切断される場合がある。切込部の一部又は全部が切断された場合であっても、中蓋部 2 1 2 は、外蓋部 1 1 2 (特に、平蓋部 1 3 6) から受ける十分な押圧力で固定されており、さらに、座部凸面 2 6 6 に中蓋部凹面 2 6 4 が嵌り、案内壁 2 4 8 に先端側面 2 6 2 が対向することで、ケーブル延出方向に対して横方向への移動が規制され、案内壁 2 4 8 の中蓋側側面 (肩部端面 2 5 2 とは反対側の側面) に、中蓋

部凹面 2 6 4 の先端面が対向することで、ケーブル延出方向への移動が規制される。これにより、中蓋部 2 1 2 が切断された場合でも、ケーブル延出方向またはその横方向に外れることを防止することができる。また、切込部 2 7 0 の一部を切断して中蓋部 2 1 2 を屈曲することは、中蓋部 2 1 2 が切込部 2 7 0 の位置ではない不適切な位置で無理に屈曲することを防止することができる。つまり、中蓋部 2 1 2 を切込部 2 7 0 の位置で正確に屈曲状態にできる。よって、中蓋部 2 1 2 の一部切断を前提とすることは、中蓋部 2 1 2 が折曲げの際に無理に屈曲されることで意図しない方向に曲がることよりも望ましい。